



# QOL

Quality of Life  
サポーター新潟  
新潟医療福祉大学広報誌 No.10

学長室訪問取材●研究室訪問取材●地域訪問取材  
NEWS●2006年4月に向けて●学外実習●国家試験対策●就職センター  
入試日程●イベント案内●メールマガジン案内

この度、QOLサポーター新潟の編集部より私どもに学生の代表として、本学学長の高橋榮明先生と対話する機会を持ってみたいかというご提案を受け、貴重な体験をさせていただきました。

まずは、「学長がこの大学で思い描いている夢はなんだろう?」と思い立ったことから今回は「学長の夢とは?」と題し、学長の高橋榮明先生に本学の地域活動の紹介と未来への夢について、また、学長よりご紹介頂いた先生方に研究内容・活動内容について突撃インタビューを行って参りました。

学生取材メンバー:

鶴若大祐、武田智徳、手塚祐太、高橋美咲、  
石塚史子、高橋安子、田中亜衣子、田中沙織、  
名納林千佳、平澤麻梨子



新潟医療福祉大学 学長

高橋 榮明

## 学長に聴く! 大学が行っている地域活動とは?

現在、たくさんの地域活動が大学で行われていると思いますが、大学が行っている地域活動として、これだけは知っている欲しい活動を挙げてください。

### 「島見町から始まる地域活動」

教員が地域との関わりを持つときには必ずしも学生も一緒に関わって、学生も興味を持って、地域と関わり合いを持てるような教育をしようというのが、本学の特色です。まず北新潟(島見町や豊栄地区を含む阿賀野川より北側)では、北新潟地域づくり学会(はまなす学会)が設立され、地域活動としてどの様に北新潟の地域おこしをしたら良いのかということ、社会福祉学科の丸田秋男教授が中心となって、松浜地域の方達と活動しています。はまなす学会の会頭は社会福祉学科の山手教授です、理事には本学の学生が2名参加しています。学生が地域づくりの団体に理事として参加しているということは画期的なことなのです。また、本学のボランティア団体である「レクア・コム」は、社会福祉学科の第1期生が高校時代から温めてきたアイデアを

大学で実現したもので、レクリエーション活動やボランティア活動のみでなく、地域のような活動に参加し、協力しています。

### 「新潟県での活動」

新潟市においては、社会福祉学科の原敏明教授が生涯学習センターで「食」について様々な活動をされています。

新潟県の他の地域では、長岡市の健康増進について丸田秋男教授と健康栄養学科の村山伸子教授が関わっています。また、旧名立町と旧加治川村では、理学療法学科の小林量作助教授が高齢者の転倒予防について色々と指導しています。高齢になると転倒により骨折を起こしやすくなり、骨折を起こすと寝たきりの原因にもなりますので、そのためにも転倒予防は地域活動として重要になってきています。

### 「環日本海圏での活動」

もう少し広い地域で考えて、国際交流ということになると、新潟にある大学として、環日本海圏地域と交流を図りたいと思います。本学ではロシア語と中国語と韓国語をカリキ

ュラムに取り入れています。学生が希望すればロシアや中国や韓国の国々を、それぞれ訪れることができるようにしたいと思うし、それらの地域の学生が日本に滞在する際のお世話をすることができればと思っています。現在、韓国の大学と社会福祉学科の交流が始まっています。国際交流が本学でも一層発展することを期待し、また、興味を持ってくれる人が増えて欲しいと思っています。

### 「近辺諸国での活動」

さらに広がって東アジア地域になると、村山伸子教授が学生と一緒にラオスに行き、色々と国際貢献活動をしています。私は東アジア地域に非常に興味を持っていて、タイ国、インドネシア、フィリピンに多数の友人がいます。将来興味を持つ学生が出てくれば、力になってあげたいと思っています。

それから、東アジア地域に限らず、アメリカやドイツ、イギリスなど様々な世界の国々に興味を持って欲しいと思っています。学生諸君には外国を訪問し、その国の学生と知り合って欲しい。そうすることにより、視野が広がると思います。



## 学長に聴く！ 未来の「夢」とは？

■ 未来の「夢」を語ってください。

### 「大学の3つの理念」

私は、この大学を設立した時に3つの理念（大学がどういう方向へ進むのか）を考えました。すなわち、人物像（学生がどのような人間になって欲しいか）、地域貢献（組織としての大学が地域とどのように関わっていくのか、地域貢献というのはどこの大学でも大事な研究と教育の柱になっています）、国際交流（新潟にある大学として、環日本海圏地域（ロシア、モンゴル、中国、韓国、北朝鮮）との交流を願い）を挙げました。

### 「20～30年後の 大学周辺の環境として」

具体的にこうあって欲しいと思うのは、10年後は難しいだろうけど、20～30年後には大学周辺に住宅が増え、また、スポーツ施設や福祉タウンができ、本学が一層地域社会と関わっていければ良いと思っています。その準備の為に、6月にアメリカへ行

った際に福祉タウンを視察したりして、いろいろ自分なりのイメージ作りはしています。

### 「国際交流は身近なところから」

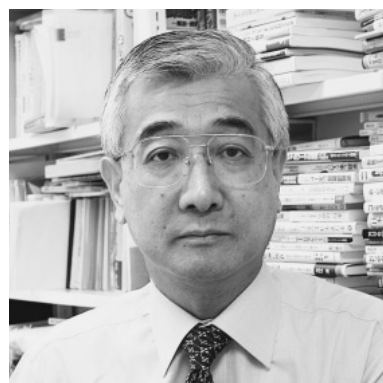
国際交流について考えてみましょう。  
例えば、中国でも韓国でも高齢化が急速に進んでいます。中国は一人っ子政策を行っています。日本と同様な問題が、将来恐らく起こると思います。日本では既に少子高齢社会が訪れています。そう考えると、我々には、先行している社会モデルがどこにもないのです。我々が行うことがうまくいった場合でも、うまくいなくて、予想したような結果が得られないような場合でも、それは中国や韓国などの国々にとって、全て参考になるので、非常に興味を持って日本を見ています。その様な中で、君達が卒業研究に取り組んで、更に大学院で研究して欲しい。それら東アジアの国々の人たちと共同研究が出来ます。その中で優れた研究は新潟医療福祉学会で発表し、原著論文として取り上げ、選ばれたものは英訳し、

「Niigata Journal of Health & Welfare」に掲載したいと思っています。そうなれば、君達の研究は世界から注目されます。その様な世界で活躍する人材に君達にはなってもらいたい。

### 「保健・医療・福祉のナンバーワン」

私が持っている大学に対する「夢」は、保健・医療・福祉分野のナンバーワンの大学になって欲しい。この分野の指導者を、この大学から輩出して欲しい。それは強く期待している夢なのです。





社会福祉学部 社会福祉学科 教授  
丸田 秋男

## 常に学生や地域と共に活動する 実践的研究者を目指す！

### 研究室訪問取材

### 「丸田秋男研究室」

■ いつ「はまなす学会」は  
設立されたのですか？

平成14年7月7日に設立されました。

北新潟地域に暮らす人々が『地域』と思  
う地理的基盤において、そこに暮らす人々  
の一人ひとりが主体的に参加し、体験し、  
学び、考え、創造し、実践し、21世紀に向  
けた新しい「地域づくり」を目指す場が  
「北新潟地域づくり学会」（はまなす学会）  
なんです。

学会というと、どうしても研究者や大学  
の先生が中心だと思われがちですが、はま  
なす学会はそういうものではないんです。  
地域住民とNPO（非営利組織）、ボラン  
ティア団体、PTAが対等な関係で、お互いの  
パートナーシップを大切にしながら、楽し  
く学べるようにしたいという地域の方々の  
意向で、「はまなす学会」という愛称がつけ  
られました。

■ 丸田先生の夢はなんですか？

学生も教員も地域の一人であるという意  
識を持ち、大学は地域の発展に貢献する役  
割を担うという使命感を持って、地域の  
人々と一緒に新しい「まちづくり」を実現し  
たいですね。

そのための基盤として、はまなす学会を  
より発展させていければいいですね。この  
地域の一人ひとりが描いている「まちづく  
り」のイメージを現実の姿にしていくこと  
が夢です。現在、はまなす学会が取り組ん  
でいる地域の“人とひと”とのネットワ  
ーク化やコミュニティバスの運行に関する研  
究には是非多くの方から関心をもってほし

いです。

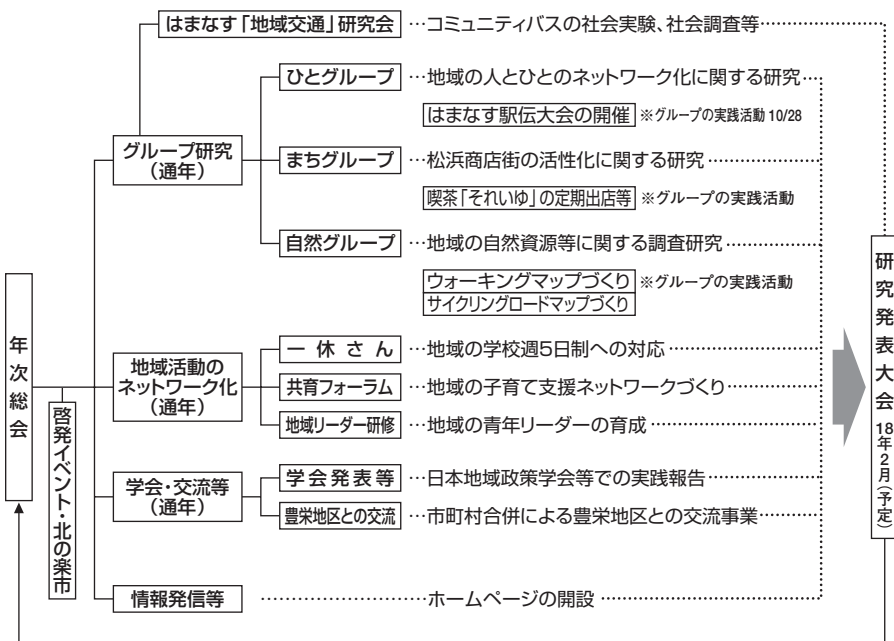
■ 今後「はまなす学会」を  
どのように発展させていきたいですか？

早ければここ2、3年のうちにはまなす  
学会の事務局を大学にもってきたいです。  
地域づくりを進めていく拠点をこの大学が  
担えることを期待しています。大学に地域づ  
くりの場を設け、この大学に小・中・高校  
生、地域やPTA、自治会の方々から出入  
りしてもらいたいと思っています。それが  
研究センターになってもいいし…。これは  
小さな夢じゃないね（笑）例えば、地域づ  
くり研究センターとかができて、学生も地

域の人たちも小学校や中学校の先生方も自  
由に出入りして、共同で実践的な研究に取  
り組む拠点がこの2～3年の間に出来れば  
いいと考えています。



### 《平成17年度事業計画の概要》





はまなす学会 副会長 岡 昌子さん  
はまなす学会 学生理事 宮原 梨恵さん

## 住んでいる方みんなにとって 北新潟が住みやすくなったらいいね！

地域訪問取材(北地区公民館において)

はまなす学会副会長、学生理事

はまなす学会の具体的な活動内容について、副会長の岡さんと学生理事の宮原さんにお話をうかがいます。

岡さんは地域在住の主婦であるかわら、はまなす学会の副会長をされています。

### ■ 商工会の楽市について教えてください。

楽市というのは、店を出して、「地域にこんなおいしいものもあるんだよ」という紹介と、地域の人にもはまなす学会という存在を分かっていたら、「こういう活動をしていますから、どうぞ皆さんもこれから学会に興味をもって会員になってください。」という、啓発活動を行っているんです。

### ■ はまなす学会の設立の経緯と、 大学との関係について教えてください。

もともと、はまなす学会は、公民館事業の中から出たものなんです。「住んでいる方みんなにとって北新潟が住みやすくなったらいいね」という発想からなんです。きっと地域の人だけだと煮詰まってしまうというのもあるし、やっぱり新鮮な発想はなかなか浮かばなかったりするんだけど、ほんとに純粋に関わってくださるので、新潟医療福祉大学の存在というのは大きいんです。

### ■ 今後、地域としてどういことを はまなす学会に期待しますか？

自分の住んでいる地域に、もっともっと興味を持って欲しい。そして、いろいろな

ことに協力してもらえると、もっと地域が楽しくなって、子どもたちも、もっと豊かに育つんじゃないかなと思うんです。どうしても日常生活に追われてしまって、なかなかそんな余力がないって、みなさん思っておられると思うんですけど、一歩足を踏み入れれば案外そうでもなくて、ただ、その一歩が出ない。だから、その一歩を出してもらうために、色々考えるんですけど。

人と関わるといのは大変なことも、わずらわしいこともあるんだけど、関わるからこそ見えてくるものや得るものがいっぱいあって、特に人との関わりなしで子どもは育たないんです。だから、学生さんもせっかくこの地域に4年間いらっしゃるんだから、大変なこといっぱいあるんだけど、ご自分から積極的に地域の人と関わりを持ってもらえると、その分きっと得ることも、もっとたくさん何倍もあると思うので、そういう風に思っていたらすごくありがたいかなと思います。

はまなす学会には、本学の学生2名が学生理事として参加しています。そのうちの1名である宮原さんは言語聴覚学科の3年生です。

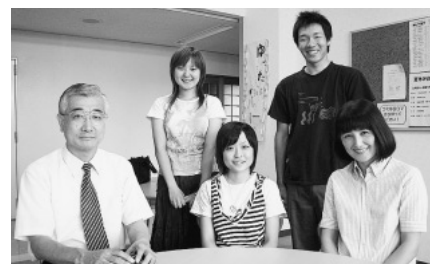
### ■ 学生理事はどのような活動をしているのですか？

地域の会議の時に加わって、大学生がもしその活動に参加するのであれば、大学と連絡を取り合い、地域と大学の連携を図るために、つなぎ役みたいな感じで参加しています。具体的には、去年、はまなす駅伝というのを第1回目で行ったのですが、そ

のときに大学構内を走るということだったので、大学の事務局に「こういうことで使いますよ。」ということ伝えたり、「そういうふうで大学で言っていましたよ」ということを地域の方に伝えたりとか。あと「施設がこういうふうになっているので、そういう風に使ってください。」ということ地域の方に知ってもらったりとか、そういうことをしていました。

### ■ 今後、学生理事としてどういことを はまなす学会に期待しますか？

今までは大学というと、大学があっても大学の周りには関係ないというイメージがあったんですよ。でも、この新潟医療福祉大学に入って、このはまなす学会に参加したら、大学は地域となにかすごい関わりを持てるような気がして、そういうところに自分がいることができ、すごく嬉しいです。これからも地域の方がどんどん大学に気楽に立ち寄れる感じになったらいいなと思います。また、この地域に住んでこのような活動に参加していたら、周辺を歩いていると知ってる人に会ったりとかするんですよ。そういうことがすごく楽しいので、他の学生の皆さんにもどんどん地域に参加して欲しいなと思います。





## 臨床現場にこそ問題や研究テーマ、 援助できることがある！

研究室訪問取材

「小林量作研究室」

どんな研究あるいは活動を行ってききましたか？

最初は脳卒中の理学療法、それから神経難病\*の理学療法、在宅の患者さんや家から通院してくる患者さんを対象とした地域理学療法、これらに関連した住宅改修や福祉用具に関する研究・活動を行ってききました。共通しているのは高齢者ということです。

現在どのような活動を行っていますか？

高齢者に関する転倒の研究を行っています。高齢者が転ぶと若い人と違い、骨折しやすく、また、足のつけ根（大腿骨頸部）の骨折が原因で寝たきりになりやすいのです。寝たきりの高齢者が増えている原因は脳卒中だけではなく、転倒骨折による寝たきりもあります。それで、転びにくくすること、転んでも骨折しにくくすることで寝たきり予防できないかと思い、研究しています。本学もそういう事に力をいれています。

研究への夢はなんですか？

今行っている研究に関して言えば、転倒予防に関する活動を各市町村に普及していく必要があります。介護保険が来年に改訂されます。2000年に介護保険が施行されたにも関わらず、軽い障害の人が寝たきりに悪化するのを予防できていないので、そこに力を入れていこうというのが改正のポイントになっており、それを各市町村が行っていかねばなりません。本学も協力してそのような事業のシステムができればいい

と思います。将来的には、転倒予防が各市町村でもできるように大学でのバックアップ・システムを考えたいです。それからもう一つは、神経難病の患者さんに対して、在宅理学療法を行いたいです。神経難病の患者さんは、少しずつ力が衰えますが、そのような状況でも理学療法で援助できることがたくさんあります。

転倒すると何がいけないのか、  
転倒するとどうなってしまうのか？

転倒することによって骨折し、それを契機に寝たきりになってしまいます。寝たきりになることによってその人自身も不幸だし家族も大変になります。医療費や介護費も必要ですから、社会的に問題となっています。65歳以上のお年よりで転倒する確率は20%で、内骨折する割合は5～10%です。数値で見るとあまり多くありませんが、高齢者が多いため何十万という数になります。転倒骨折によって寝たきりになると本当は80歳まで生きられた人でも75歳で亡くなったり、寝たきりで余生を送るということになってしまいます。転んで骨折しない場合でも、歩くことが怖くなったり、腰が痛くなったり、家族が心配して外出を制限したりすることによって家に閉じこもって寝たきりになってしまいます。また精神的な落ち込みや痴呆が進むこともあります。骨折して寝たきりになる人と、骨折しなくても寝たきりになる人の2パターンがあります。

今後、作業療法、言語聴覚、社会福祉、  
健康スポーツ、健康栄養、介護は  
どう関わればいいですか？



医療技術学部 理学療法学科 助教授  
小林 量作

大きな枠組みでいえば介護予防、あるいは転倒予防に対して、いろいろな人が関わったほうが良いと思います。作業療法であれば住宅改修、健康栄養であればバランスを考えた食事、言語は食事をとるための嚥下指導、社会福祉は住宅改修の経費や介護保険をどうするか、健康スポーツはスポーツ指導、看護は施設や病棟で発生する転倒予防へのアプローチなどができます。



■ キャッチフレーズはなんですか？

「臨床現場にこそ問題や研究テーマ、援助できることがある」。大学の教員はいろいろな経験をして着任しています。臨床現場にでてから教員になる人と、主に研究を行ってきて教員になる人がいますが、私は臨床が長かったので、臨床が原点となっています。

\*神経難病：原因が不明で、治療法も確立していません、徐々に進行する神経系の病気。





## 持続的・公平・健康的な 循環型社会づくり!

研究室訪問取材

「村山伸子研究室」

どんな研究あるいは活動を行なってきましたか?

私は、在日の友人等が受けていた社会的な差別やベトナム戦争をきっかけに、不合理な格差を社会全体として解決するために、社会科学の勉強をしようと大学は法学部に進学し国際関係論を学びました。卒業後、就職もしましたが実際にアジアの現場を見てみたいと考え、タイやミャンマーなどで生活しました。そこで、環境の中で人間が生きること、それを循環として捉える分野で研究したいと考え、栄養学、栄養生態学に進学しました。

日本以外の他文化と接することで、プラスになったと思うことはありますか?

全てが多分プラスですね。自分の狭い考え方や、一面的なものの見方から、違う見方、多面的なものの見方ができるようになります。自分の受容力を広げていくトレーニングにはなったと思います。多面的にものが見えるということは、何か問題にぶ



つかったときや物事を判断しなくてはならないときに、多様な選択肢を考えることにつながりますので、とても重要なことだと思います。

現在、どんな研究・活動を行なっていますか?

日本国内外の地域全体の健康や栄養、食生活の向上をはかるための、環境や教育のシステムづくりとその検証や評価に関心があります。現在は、国内では市町村や県など自治体の健康づくり計画・実施・評価を行っています。国外では、ラオスの国立公衆衛生研究所、日本の総合地球環境学研究所との共同研究で、人々がどのように自然と共存し、環境利用をしながら食生活を営み、健康を維持していったらよいかといった栄養生態学調査研究をしています。ラオスではまだまだ乳幼児死亡率が高いので、昨年度は授乳、離乳や食事調査を実施しました。今年度からは、簡便に日常生活の食事摂取状況を把握するための食事調査方法の開発にとりかかっています。先週、そのフィールドワークから帰国したばかりです。

それ以外にも、トンガ王国で食環境の変化に伴い、肥満や生活習慣病が増加していることに関する研究、バングラディッシュ農村の生活向上のためのNGO活動とそれによって栄養状態が向上したかといった検証をしています。ラオス調査やバングラディッシュの活動は、学生も一緒ににぎやかに行っています。また、バングラディッシュからは研究生の受け入れもしています。



医療技術学部 健康栄養学科 教授  
村山 伸子

村山先生の活動や研究への夢はなんですか?

夢は、これまでやってきた、社会科学、栄養学、生態学を生かして、持続的・公平・健康的な循環型社会づくりをしていくことです。次の世代の人にも伝えていきたいと思っています。もう少し具体的には、国内では、食べ物の生産から摂取、健康食物の廃棄までをつなげた、生態学的なアプローチで食育プログラムを地域ベースで実施し、長期的な効果検証の研究をしたいと考えています。

国外では、ラオスの食事調査法の開発をもとに、食と環境や健康との関係や課題を明確にし、対策をして、効果判定をするといった、介入研究をラオスの政府や研究者とともに行っていきたいと考えています。



### あ と が き

取材をさせていただいた先生方と写真部の方には、ご協力いただき、ありがとうございました。心より感謝いたします。

写真協力：写真部 磯部史佳

## ハルビン医科大学と学術交流協定締結

4月17日(日)、本学会議室において、本学とハルビン医科大学第一臨床医学院の学術交流協定調印式が執り行われました。

中国黒龍江省に位置するハルビン医科大学は、約一万人の学生が勉学に励む、80年以上もの歴史を持つ大学です。

調印式では、ハルビン医科大学第一臨床医学院より、周晋院長が来学し、本学の高橋榮明学長と、それぞれの機関を代表して調印を行い、かたい握手をかわしました。

高橋学長は調印に際して「少子高齢化とい

う共通の目標を解決するための学術交流を大いに展開していきたい。」と挨拶し、今後、学生や研究者の交流をはじめ、講義・講演・シンポジウムの実施等、様々な形態での大学間



交流へ強い意欲を示しました。

2001年4月の本学開学以来、初となる今回の協定締結が、今後の更なる国際交流への礎となることを期待しています。



## 平成17年度 事業記念 モニュメント除幕式

4月29日(祝)、本学エントランス付近に設置されたモニュメントの完成を記念して、制作者の彫刻家 原田哲男氏をお招きし、除幕式が行われました。

モニュメントは、本学が教育目標として掲げる医療福祉関連の他職種間での連携や、高齢化の進む地域社会を豊かな人間力で支える人材育成の象徴として制作されたもので、作品名の「MOMOTARO」が表すように、誰もが知っている昔話「桃太郎」の持つ、「協力」「愛情」「やさしさ」「力強さ」「恩」といったイメ

ージから発展した作品となっています。

式典では、高橋学長が「このモニュメントには、保健・医療・福祉の総合大学として、新潟県そして日本の医療福祉関連の分野と教育の質を高めるという、本学の今後の発展に向けた強い意欲が込められている。今日はシンボリックな素晴らしい日になった。」と挨拶し、続いて制作者の原田哲男氏、アニー夫人、高橋学長、池田理事長、渡辺理事、各学科学科長によりモニュメントの除幕が行われ、本学の新しいシンボルの出現に、参加者から盛大な拍手が寄せられました。



## 大学院設立記念講演会



6月3日(金)・4日(土)、本学大学院修士課程の開設を記念し、米ハーバード大学医学部で多職種間連携を専門とするデーヴィット・サ

ティン教授を招き、保健・医療・福祉の専門職種間連携を考える講演会が開催されました。当日は、本学関係者はもちろん、学外からの聴講者も多数来場されました

6月3日(金)は、第一部として本学 濱口豊太助教授(作業療法学科)、高木昭輝教授(理学療法学科)、岩崎浩三教授(社会福祉学科)からそれぞれプレゼンテーションが行なわれました。続いて第二部として、デーヴィット・サティン教授より“Geriatric Health and Welfare in the United States”(米国の高齢者

の健康と福祉)と題した講義が行われました。

6月4日(土)は、第一部として本学大学院学生5グループによる発表が行われ、その後、第二部としてデーヴィット・サティン教授による「高齢者に対する専門職連携教育と実践」と題した講義が行われました。

2日間の講演を終えて、本学では大学院修士課程をはじめとした高等教育機関として、また保健・医療・福祉の総合大学として、より積極的に多職種間連携への教育・実践に努めていきたいと考えております。

## サッカー「アルビレックス新潟」所属選手対象栄養セミナー

6月30日(木)、本学健康栄養学科 村山篤子教授と学生5名がアルビレックス新潟の所属選手を対象に、卒業研究の一環として食事と栄養に関するセミナーを行いました。

当日は、村山教授による栄養素とその働きについてのセミナーと、学生による事前の食事調査の結果報告とその改善点について、実物写真を示しながら話し合いました。

トップアスリートとして活躍する選手達と

接点をもったことは学生にとって非常に貴重な体験であり、今後栄養指導を行う立場として、自分たちに必要とされる知識や技術を改めて実感する事のできる良い機会となりました。

健康栄養学科では、今後も更にこのセミナーを続けていく予定です。





## 学友会スポーツ大会

6月12日(日)に学友会が計画・運営を行いスポーツ大会が開催されました。参加した学生は集合時の朝はあまり元気がなく、また、追い討



ちをかけるように天候も曇っており心配していましたが、競技が始まると真剣な顔や笑顔といった色々な表情を見ることができました。



10人11脚、綱引き、タイヤ引き、大縄跳びを競技として行い、随所に各学科の学年を超えたまとまりや連携を見ることができ、学科の縦横のつながりを深めるというスポーツ大会の目的を果たすことができたと思います。参加した学生の協力もあり、大成功という形でスポーツ大会を終えることが出来ました。運営に対するご協力ありがとうございました。また、これからも学友会活動にご協力よろしくお願ひします。

学友会会長 言語聴覚学科2年 長嶋健介

## オープンキャンパス

7月16日(土)、8月6日(土)、9月10日(土)にオープンキャンパスを開催しました。県内外から大変大勢の皆様をお迎えし、《学科紹介》や《入試概要説明》、本学教員・在学生と共に様々な体験学習を行う《体験コーナー》や、一足早く大学生気分を味わうことのできる《模擬授業》、教員・学生による《個別相談コーナー》など、様々なプログラムが行われました。

参加した皆様からは、「在学生に直接質問をぶつけて、資料やパンフレットには載っていない、大学の魅力にふれることができた」「体験学習に参加して、職業に対する理解が深まった」「入試に向けて、今やるべきことがはっきりしました！絶対合格します！」など、自分の進路に向けて大きな収穫を得ることが出来たようです。(当日の来場者アンケートより)



## 水泳部 強化指定1年目の快挙！



強化指定1年目の水泳部が、8月2日(火)～8月4日(木)に行われた、「第78回関東学生選手権水泳競技大会」(東京辰巳国際水泳場)に出場し、大会3日目に健康スポーツ学科1年の松金祥子さんが【女子2部】200m自由形で、これまでの【女子2部】での大会記録を3秒近く上回る大会新記録で優勝するなど、皆、日頃の練習の成果を存分に発揮するすばらしい泳ぎを披露しました。また、【女子2部】では総合3位となり、9月2日(金)～9月4日(日)の「第81回日本学生選手権水泳競技大会(以下インカレ)」(なみはやドーム)への団体出場権を獲得しました。

今年度新入部員全員が標準記録を突破し、出場権を獲得したインカレでは、大会初日から、合わせて3つの種目で日本新記録が塗り替えられるハイレベルな戦いの中、大会2日目に健康スポーツ学科1年の松金祥子さんが、女子200m自由形で7位に入賞するという快挙を成し遂げました。この他にもB決勝を含み3名が予選を通過し、また女子の総合成績でも17位にランクされるなど、本年度より強化指定クラブとして本格始動を始めた水泳部に大きな希望と勇気を与える結果を残しました。

出場選手の結果につきましては、本学ホームページに詳しく記載されています。

## 「研究推進機構 プロジェクト研究センター」が設立されました。

このたび、「転倒予防研究センター」「地域包括ケア研究センター」の2つのプロジェクト研究センターが設立されました。

「プロジェクト研究センター」は従来の学部の、学科の枠を超えて、新たに設けられた「研究推進機構」という独立した枠組みの中に設置されるものです。

“プロジェクト”の名前が示すように、この研究センターは本学教員のみならず、国内外から広く研究者が参画できる仕組みとなって

おり、主として学際的な共同研究を推進するために時限を設けて設置され、先端的、今日的な研究テーマに機動的に取り組める研究組織であると言えるでしょう。

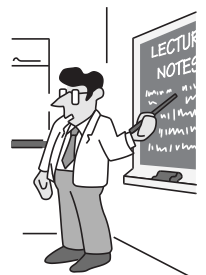
また、学外との共同研究、委託研究や外部資金の受入れに柔軟かつ敏速に対応できる仕組みになっていますので、優れた研究成果が得られ、その成果が発信されることに大きな期待が寄せられます。

今後もすでにいくつかのセンター設立が予

定されており、この「研究センター」が本学の研究推進に躍動感をもたらすものと考えられます。

ぜひとも皆様のお支えをお願ひいたします。

※詳細につきましては、後日本学ホームページに掲載する予定です。



## 2006年4月に向けて

### 医療技術学部 看護学科 設置

### 社会福祉学部 社会福祉学科 定員増 (100名→120名)

### 社会福祉学部 社会福祉学科 介護福祉コース 増設予定 (指定申請中)

この度、医療技術学部 看護学科 (入学定員80名、3年次編入学定員10名) の設置および社会福祉学部 社会福祉学科の入学定員増 (100名→120名) が公的に認められました。また、社会福祉学部 社会福祉学科では、介護福祉士養成施設としての指定申請 (定員40名) を行いました。

2006年4月より看護学科を加え2学部7学科で連携・融合を図り、より充実した教育を行ってまいります。

看護学科・社会福祉学科 介護福祉コースの詳しい資料及び看護学科を含んだ新しい学生募集要項をご希望の方は、新潟医療福祉大学 入試事務室にお問い合わせください。(入試事務室：☎025-257-4459)



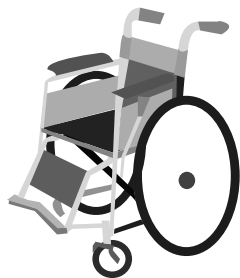
## 学外実習

### 実習を経験して

医療技術学部 理学療法学科 4年 斎藤友美

臨床実習では大学では学びきれないものを得ることができます。本実習では私の知識・技術の未熟さを痛感しましたが、それ以上に患者様を理解することの大切さを学びました。私が担当させていただいた患者様は、最初は治療効果がほぼ見られませんでした。ある日今まで困難であった動作を行えるようになり、その日以来回復力が向上しました。これは私の治療が未熟であったためでもあります。それ以上に患者様が自信を持てるようになったことが大きく関与していると考えています。この経験から、患者様が安心感をもち意欲を引き出せるよう心がけることの大切さを実感しました。そのためには疾病のみならず、精神面も踏まえて患者様をよく知ることです。簡単なことではありませんがコミュニケーションや接し方に配慮し、信頼関係を築けるよう努めたいです。

今後、患者様のニーズに対し知識や技術だけではなく創造性や柔軟性も持ち、患者様に必要とされるQOLサポーターを目指していきたいです。

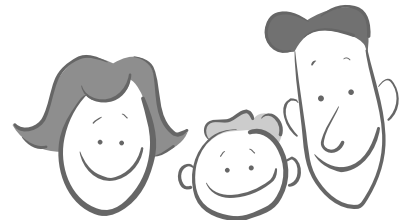


### 実習で経験した喜怒哀楽を忘れずに

実習指導者 新潟リハビリテーション病院

理学療法士 関 清美

今回、実習生を受け入れて自分の学生時代を思い出しました。素朴な疑問、思うようにできない悩みなど皆さんも実習で経験したのではないのでしょうか。私が担当した学生の斎藤さんは、表情が豊かで真剣に患者様と向き合う姿が印象的でした。実習生を通じて、「理学療法士の自分は患者様に何ができるのだろうか」と私自身改めて考える機会を持つことができました。実習を終えた学生の皆さんに期待することは、「実習で経験した喜怒哀楽を忘れないでほしい」ということです。それぞれ皆さんには、印象に残る経験・悩んだこと、感動したこと、嬉しかったこと…があると思います。人に関わる仕事をを目指す皆さんには、「治してあげたいという真剣な気持ち、嬉しいときには患者様と一緒に喜べる感情の豊かさ、そして人生の先輩である患者様を尊敬する態度」をもった人間らしい理学療法士になってほしいです。国家試験を通り、臨床の場で皆さんに会えることを楽しみにしています。



### 新潟リハビリテーション病院 (新潟市木崎)

新潟医療福祉大学の附属病院としての機能を備える新潟リハビリテーション病院は、大学からも近い位置にあり、医療・福祉・保健分野への総合的な視点と温かい人間性を持つ専門職の育成、この分野の臨床研究を本学と協力して進めています。また、地域の総合的なリハビリテーションセンタ

ー機能をもち、地域社会の医療福祉の向上に努めています。

診療科目は、一般外来としてリハビリテーション科・整形外科・内科・神経内科(物忘れ外来)・歯科・歯科口腔外科、特殊外来として骨粗鬆症予防外来・スポーツリハ外来・転倒骨折予防外来があります。



## 国家試験対策

国家試験対策委員会 委員長／教授 黒川 幸雄

平成17年度の国家試験対策委員会の活動の柱は、第一に合格100%を目標に5学科が取り組むことになった点です。大学としてその強い意志を学生に伝えていくことが重要です。第二に目標を遂行するためのシステマティックな行動プランを持つことです。第三に不合格者に対しても基本的にアフターケアを出来る限り徹底する点です。第四に各学科共それぞれの教員のゼミで卒業論文、就職、そして国家試験対策を一体的に学生指導を行う方針です。

11月19日(土)に保護者会が本学でありますので、本学の国家試験対策活動概要(冊子)を作成し、広く活用して理解を求めていく予定です。

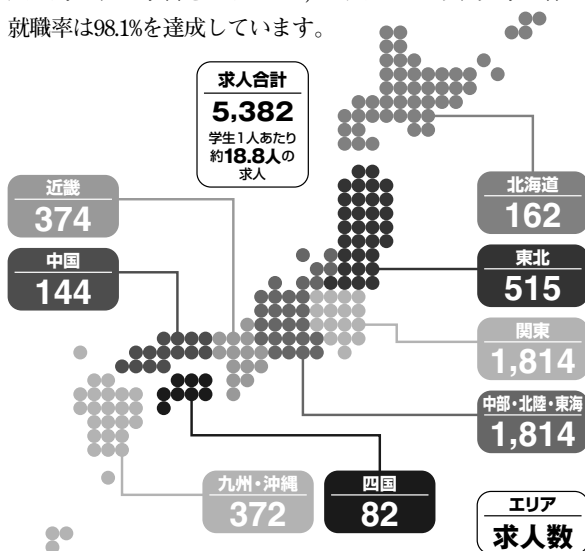
国家試験対策は、まず学生自身がその必要性を感じ、自発的に学習する姿勢に出来る限り早い時期に目覚めて、学習に励んでくれることが重要です。その援助を大学の重点課題として取り組むことになります。

今後の行動計画日程は、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、健康栄養学科、そして社会福祉学科におきましては、すでに今年度初回の模擬試験を開始し、今後毎月数回の模擬試験などを行い、12月には特別講座なども用意し、万全の体制をとって、社会福祉学科は1月、言語聴覚学科は2月、理学療法学科・作業療法学科・健康栄養学科は3月の国家試験実施に向け対策を促進させていただきます。

## 就職センター

### 《地域別求人数》

平成16年度、本学に寄せられた求人数は、就職希望者286人に対し、全学科をあわせて5,382人にのぼり、大学全体で就職率は98.1%を達成しています。



### 《平成17年度後期就職指導スケジュール》

10月	11月	12月
合同就職面接会 一般企業合同就職ガイダンス (於:新潟市体育館) 4年生対象	保護者会(学科別懇談会) 就職指導体制及び各職種の 就職状況の説明(於:本学) 3年生父兄対象	求職登録 求職登録面接、希望職種、 地域の確認(於:本学) 3年生対象
未内定者フォローガイダンス 自己分析の再確認、 これからの就職活動 4年生対象	就職ガイダンス 情報収集・就職試験の受け方、 ルール等(於:本学) 3年生対象	秋期就職対策講座 就職試験(一般常識)、教養試験対策、 面接試験対策など(於:本学) 2・3年生対象
秋期就職対策講座 就職試験(一般常識)、教養試験対策、 面接試験対策など(於:本学) 2・3年生対象	就職ガイダンス 情報収集・就職試験の受け方、 ルール等(於:本学) 3年生対象	未内定者フォローガイダンス 自己分析の再確認、 これからの就職活動 4年生対象
1月	2月	3月
未内定者フォローガイダンス 自己分析の再確認、 これからの就職活動 4年生対象	就職ガイダンス 医療福祉職の就職動向 医療福祉施設の採用担当者講演 (於:本学) 3年生対象	春期就職対策講座 就職試験(一般常識)、教養試験対策、 面接試験対策など(於:本学) 2・3年生対象
	春期就職対策講座 就職試験(一般常識)、教養試験対策、 面接試験対策など(於:本学) 2・3年生対象	公務員試験応用対策講座 医療、福祉職の公務員を希望する 学生のための対策講座 2・3年生対象

### 《医療福祉職求人説明会》

8月9日(火)本学学内において、「医療福祉職求人説明会」が開催されました。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士(栄養士)、医療相談員職の採用を検討している医療福祉施設、68施設110名の採用担当者をお招きし、4年生約200名が参加しました。

高橋榮明学長、就職センター丸田秋男教授による挨拶に続き、個別ガイダンスを実施しました。採用担当者から当該施設の説明や本学学生からの質問に丁寧にいただきました。参加施設からも「是非1名でも多く採用できればと思う。今後も継続して採用していきたい。」など、非常に高い評価をいただくことができました。また、「今回の面談に参加した学生で採用したいと考えている学生はいましたか?」という質問に対しても、79%の方が「いる」と答えるなど、参加した学生にとって、情報収集とともに、卒業後の自らの進路に向け大きな収穫を得ることのできる充実した説明会となりました。(本学アンケートより)



## 大学院入試日程表

試験区分	試験地	出願期間	入学選考試験日	合格発表日	入学手続期間
第2次募集	新潟	平成17年11月1日(火)～平成17年11月21日(月) (当日消印有効)	平成17年11月26日(土)	平成17年12月2日(金)	平成17年12月2日(金)～平成17年12月16日(金) (当日消印有効)
第3次募集	新潟	平成18年2月1日(水)～平成18年2月14日(火) (当日消印有効)	平成18年2月18日(土)	平成18年2月24日(金)	平成18年2月24日(金)～平成18年3月10日(金) (当日消印有効)

■第1次募集については出願受付を締め切りました。  
 ■詳しくは学生募集要項をご覧ください。学生募集要項をご希望の方は、新潟医療福祉大学 入試事務室にお問い合わせください。(入試事務室:025-257-4459)

## 学部入試日程表

試験区分		試験地	学 科	出願期間	入学選考試験日	合格発表日	入学手続期間	
推薦入学選考試験	公募推薦	前期日程	理学療法学科 作業療法学科 言語聴覚学科 健康栄養学科	平成17年11月1日(火)～平成17年11月5日(土) (当日消印有効)	平成17年11月12日(土)	平成17年11月19日(土)	平成17年11月19日(土)～平成17年12月2日(金) (当日消印有効)	
		後期日程	健康スポーツ学科 看護学科 社会福祉学科	平成17年12月5日(月)～平成17年12月10日(土) (当日消印有効)	平成17年12月17日(土)	平成17年12月27日(火)	平成17年12月27日(火)～平成18年1月6日(金) (当日消印有効)	
	指定校推薦		新潟	健康スポーツ学科 社会福祉学科	平成17年11月1日(火)～平成17年11月5日(土) (当日消印有効)	平成17年11月12日(土)	平成17年11月19日(土)	平成17年11月19日(土)～平成17年12月2日(金) (当日消印有効)
	スポーツ自己推薦		新潟	健康スポーツ学科	平成17年11月1日(火)～平成17年11月5日(土) (当日消印有効)	平成17年11月12日(土)	平成17年11月19日(土)	平成17年11月19日(土)～平成17年12月2日(金) (当日消印有効)
社会人等特別入学選考試験		新潟	理学療法学科 作業療法学科 言語聴覚学科 健康栄養学科 健康スポーツ学科 看護学科 社会福祉学科	平成17年11月1日(火)～平成17年11月5日(土) (当日消印有効)	平成17年11月12日(土)	平成17年11月19日(土)	平成17年11月19日(土)～平成17年12月2日(金) (当日消印有効)	
大学入試センター試験 利用入学選考試験			理学療法学科 作業療法学科 言語聴覚学科 健康栄養学科 健康スポーツ学科 社会福祉学科	平成18年1月10日(火)～平成18年1月25日(水) (当日消印有効)	個別学力検査等は課さない センター試験日程 平成18年1月21日(土) 平成18年1月22日(日)	平成18年2月13日(月)	平成18年2月13日(月)～平成18年2月20日(月) (当日消印有効)	
一般入学選考試験	前期日程	新潟 東京	理学療法学科 作業療法学科 言語聴覚学科 健康栄養学科	平成18年1月10日(火)～平成18年1月25日(水) (当日消印有効)	平成18年2月5日(日)	平成18年2月13日(月)	平成18年2月13日(月)～平成18年2月20日(月) (当日消印有効)	
	後期日程	新潟	健康スポーツ学科 看護学科 社会福祉学科	平成18年2月13日(月)～平成18年2月24日(金) (当日消印有効)	平成18年3月4日(土)	平成18年3月11日(土)	平成18年3月11日(土)～平成18年3月23日(木) (当日消印有効)	

■アドミッション・オフィス(AO)方式による入学選考試験については出願受付を締め切りました。  
 ■詳しくは学生募集要項をご覧ください。新設の看護学科を含んだ学生募集要項を配布中です。学生募集要項をご希望の方は、新潟医療福祉大学 入試事務室にお問い合わせください。(入試事務室:025-257-4459)

## イベント案内

キャンパスツアー 11月3日(祝)・3月25日(土)

●11月3日(祝)

- 第1部プログラム 10:30～12:00 (10:00受付開始)「一般入試 英語の傾向と対策」
- 第2部プログラム 13:00～15:00 (12:30受付開始)「大学概要説明、入試概要説明、施設見学ツアー、各学科特別企画(作業療法学科:教員による実習施設・機器の紹介、言語聴覚学科:教員による個別相談コーナーとビデオ上映、健康スポーツ学科:体験実習「テーピング・マッサージ実習」、社会福祉学科:ビデオフォーラム「精神保健福祉について」)、個別相談コーナー」

●3月25日(土) (内容は全て予定です。)

大学概要説明、入試概要説明、施設見学ツアー、個別相談コーナー等

大学見学会 12月10日(土)

本学キャンパスで開催する2005年最後のイベントです。センター試験利用入試、一般入試の受験までに、疑問や不安はここで全て解消しましょう!  
 プログラム「大学概要説明、学科説明、入試概要説明、施設見学ツアー、個別相談コーナー等」

## メールマガジン案内

QOLサポーター新潟(NUHW)が届く!

新潟医療福祉大学では月に1度、本学の様々な情報をメールマガジン「QOLサポーター新潟(NUHW)」としてみなさんにお届けします!  
 キャンパスツアーや大学見学会などのイベント情報、新設学科情報、入試情報といった最新情報や教員・学生からのメッセージ、先輩の合格体験談など進路決定や入試対策の参考になる特集をはじめ、様々な内容を予定しています。Eメールアドレスをお持ちでなくても、インターネットに接続できるパソコンがあれば、どなたでもご覧いただけます。ぜひ、本学ホームページからご登録ください。



新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市島見町1398番地 TEL025-257-4455(代) FAX025-257-4456 <http://www.nuhw.ac.jp/>  
 【入試事務室】TEL025-257-4459 E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp